

平成27年度実施 協働事業

協働事業審査会 公開プレゼンテーション

◆会場 ひらつか市民活動センター

◆開催日 平成26年10月4日（土）

目次

- 公開プレゼンテーション スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・ P1

- 市民提案型協働事業 事業提案書
 - ①平塚市立小・中学校運動場、体育館個人利用促進事業・・・・・・・・ P2
 - ②市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業・・・・・・ P6

- 行政提案型協働事業 事業提案書
 - ③感覚統合療法普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P14
 - ④外国籍市民支援放送事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P18
 - ⑤食品の放射性物質簡易検査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P22

平塚市

平成27年度実施協働事業 公開プレゼンテーションスケジュール

●開催日：平成26年10月4日（土）

●会場：ひらつか市民活動センター

時間	内容
13:30 (会議室)	開会 <ul style="list-style-type: none"> ・協働事業審査会委員長あいさつ ・協働事業審査会委員紹介 ・事務局説明（スケジュールと発表の方法など）
13:40	1. 市民提案型協働事業プレゼンテーション ※提案団体プレゼン（5分）、質疑応答（5分） （継続提案） <ul style="list-style-type: none"> ①平塚市立小・中学校運動場、体育館個人利用促進事業 ②市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業 再質問タイム <ul style="list-style-type: none"> ・もう一度、確認したい事項等があれば、それについて質疑応答 ・事業内容や経費などについての助言や意見等
14:20	2. 行政提案型協働事業プレゼンテーション ※担当課説明（3分程度）提案団体プレゼン（5分）、質疑応答（5分） （継続提案） <ul style="list-style-type: none"> ③感覚統合療法普及事業 ④外国籍市民支援放送事業 ⑤食品の放射性物質簡易検査 再質問タイム <ul style="list-style-type: none"> ・もう一度、確認したい事項等があれば、それについて質疑応答 ・事業内容や経費などについての助言や意見等
15:50	3. 事務連絡
16:00	閉会予定

平成 27 年度「事業」提案書

平成 26 年 8 月 19 日

(宛先)

平塚市長様

団 体 名	東海大学地域スポーツクラブ
代 表 者	萩 裕美子
事業担当課	スポーツ課
提 案 型	<input type="checkbox"/> 行政提案型 <input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型 (<input type="checkbox"/> 自由部門 <input checked="" type="checkbox"/> テーマ設定部門)
新規・継続	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (平成 26 年度～)

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容 (事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

①事業名	平塚市立小・中学校運動場、体育館個人利用促進事業	
②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。	<p>スポーツ課が平成 24 年に行った「平塚市民における体力・スポーツ関係事項調査」によると、運動やスポーツを始めるきっかけとなりそうなものは、自宅から近距離に運動できる場所や施設の整備が最も多かった。</p> <p>そこで、地域住民の運動・スポーツへの参加意欲を高めるために、本事業を平成 26 年度から開始した。</p> <p>8 月 12 日までに 12 回実施し、延べ 260 人の参加があった。これは当初の成果目標をはるかに上回っており、市民ニーズが高いといえるだろう。</p> <p>今後も、東海大学が持つスポーツ指導のノウハウや人材を活かすことにより、地域住民や学校にとって安心・安全で、魅力的な個人開放プログラムを提供する必要がある。</p>	
③協働の必要性・メリット なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。 また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。	必要性	<p>地域住民にとって身近な学校体育施設を個人開放することにより、地域住民のスポーツへの参加意欲が高まる。</p> <p>さらに、東海大学が持つスポーツ指導のノウハウや人材を活かすことにより、地域住民や学校にとって安心・安全で、魅力的な個人開放プログラムを提供できる。</p>
	メリット	<p>(市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など)</p> <p>団体に所属しない個人が学校開放に気軽に参加できる。また、競技者同士のコミュニティの場としての役割もあり、スポーツを通じた新たな交流の場として期待できる。</p>
		<p>(団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など)</p> <p>学生が日々学んでいる成果を試すことのできる場として期待できる。さらに、大学の地域貢献としての意味もあり、東海大学のことを市民が理解し、身近に感じてもらうことができる。</p> <p>(市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など)</p> <p>市民のスポーツ実施率の向上につながる。また、東海大学 (主に体育学部) との提携事業により、市民により専門性の高いスポーツ機会を提供することができる。</p>
④事業のアピールポイント この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い思いなどアピールできることを記入してください。	東海大学が持つスポーツ指導のノウハウや人材を活かすことにより、地域住民や学校にとって安心・安全で、魅力的な個人開放プログラムを提供できる。	

<p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p>	<p>小中学校の運動場、体育館を利用して、ひとりでも利用できる個人利用の日を設ける。</p> <p>弊クラブの管理者（各回2名以上）が、初心者に対する助言・けがの応急処置・用具の管理等を行う。</p> <p>平成27年4月から下表のとおり個人開放を行う。</p> <table border="1" data-bbox="480 385 1445 629"> <thead> <tr> <th>開放施設（案）</th> <th>開放日時（案）</th> <th>利用できる種目（案）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>金目中学校体育館</td> <td>第2・4月曜日 午後7時～9時</td> <td>バスケットボール、 バドミントン等</td> </tr> <tr> <td>みずほ小学校体育館</td> <td>第3土曜日 午後1時～4時</td> <td>ショートテニス、 卓球、バドミントン等</td> </tr> </tbody> </table>	開放施設（案）	開放日時（案）	利用できる種目（案）	金目中学校体育館	第2・4月曜日 午後7時～9時	バスケットボール、 バドミントン等	みずほ小学校体育館	第3土曜日 午後1時～4時	ショートテニス、 卓球、バドミントン等
開放施設（案）	開放日時（案）	利用できる種目（案）								
金目中学校体育館	第2・4月曜日 午後7時～9時	バスケットボール、 バドミントン等								
みずほ小学校体育館	第3土曜日 午後1時～4時	ショートテニス、 卓球、バドミントン等								
<p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p>	<p>（団体の役割）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人開放のための学生の派遣 ・個人開放プログラムの準備、運営 ・学校体育施設の利用手続き <hr/> <p>（市の役割）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報やホームページへの掲載 ・学校等の連絡、調整 									
<p>⑦他団体との連携</p> <p>この事業に関し、他団体等と連携の実績や予定があれば記入。</p>	<p>みずほ小学校、金目中学校及びその学校開放運営委員会。</p>									
<p>⑧成果目標（目標値）</p> <p>できるだけ数値で具体的に記入してください。</p>	<p>個人開放プログラムは年間約33回実施予定。</p> <p>利用者の要望があれば、個人開放プログラムの実施日・実施会場を増やす予定。</p> <p>（成果目標値：年間33回、参加者平均15名）</p>									
<p>⑨関連法令等</p> <p>事業実施に関連した法令等があれば記入してください。</p>	<p>平塚市個人情報保護条例</p> <p>※ご不明の場合は、事業担当課へご確認ください。</p>									
<p>⑩事業実施以降の展望</p> <p>事業実施後の具体的な展望や、提案事業の成果をどのように活かしていくのか記入してください。</p>	<p>■ 次年度以降も双方で実施（<input checked="" type="checkbox"/> 提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 提案型以外）</p> <p> <input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施</p> <p> <input type="checkbox"/> 事業は今年度のみ予定 <input type="checkbox"/> その他（ ）</p> <hr/> <p>（実施後の具体的な事業展開や上記の補足事項）</p> <p>学生の卒業問題・人員の確保に関しては、随時、学科や代表者のゼミで声掛けをしていく。また、来年4月には新入生の勧誘を行う。</p> <p>授業の一部として関わってもらうような仕組みを検討し、協働事業終了までには自立を目指す。</p>									

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) トウカイダイガクチイキスポーツクラブ		
	東海大学地域スポーツクラブ		
②所在地	〒259-1292 神奈川県平塚市北金目 4-1-1		
③ホームページ			
④連絡担当者 及び連絡先	担当者	佐々木あすか (役職) 学生代表	
	電話	(連絡可能な時間帯) 12:30~13:00 または 20時以降	
	FAX	e-mail	
	住所	〒: 神奈川県秦野市	
⑤設立年月	2012年 6月 (法人格取得年月 年 月)		
⑥会員の状況	個人会員	40人 (うち平塚市民 30人)	団体会員 団体
⑦活動内容 ・活動実績	<p>東海大学の施設等を利用して、ウォークラリー、アウトドアクッキング、ツリーング(木登り)などの体験プログラム、ラグビー場や総合体育館を利用して自由に遊ぶプログラム、ログハウスでのクリスマスパーティーなどを企画し、子供たちを中心とした地域住民にプログラムを提供している。</p> <p>また、冬には新潟県のスキー場を活用して雪国キャンプを実施している。これらは大学生が企画・運営し、教員がそのサポート・相談役として関わっている。参加者は固定されたものではなく随時募集をしており、地域に根差した活動をしている。</p>		
⑧協働事業との関わり	<input type="checkbox"/> 新たな事業 <input type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 今までの活動と同規模		
⑨活動体制	役職等	氏名	協働事業での役割
	①代表	萩 裕美子	全体統括、市・他団体連携の調整
	②	伊藤 栄二	全体統括、市・他団体連携の調整
	③	知念 嘉史	学生指導、プログラムアドバイザー
	④	吉原 さちえ	学生指導、プログラムアドバイザー
	⑤学生代表	佐々木 あすか	プログラム企画・運営、事務作業
	⑥	上水流 景	プログラム企画・運営
	⑦	高崎 晋太郎	プログラム企画・運営
	⑧	福永 健人	プログラム企画・運営
	⑨	中根 京人	プログラム企画・運営
⑩	森 貴弘	プログラム企画・運営	

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

総事業費	236,440 円	市の支出	204,440 円
		団体の支出(他の収入等)	32,000 円

①収入

金額単位：円

項目	予算額	内容
市の支出	C 204,440	個人開放謝金、その他事務費
団体の支出	32,000	交通費
事業収入	0	
収入合計	A 236,440	

②支出

項目	予算額	うち市の支出分	積算単価のなど具体的な内容
謝金 (有償ボランティア)	153,600	153,600	月1～2回2会場、管理者への謝金 (800円×3h×2人×32回=153,600円)
交通費	32,000	0	管理者が会場に向かうための費用 (往復500円×2人×32回)
プログラム諸費	30,000	30,000	プログラム実施に必要な備品の購入費
保険料	10,840	10,840	施設所有(管理)者賠償責任保険 保険期間 1年間 保険金額 身体 1名 1億円 1事故 3億円 財物 1事故 1,000万円 のべ人数 1,000人として
事務費	10,000	10,000	会議関連、コピー代、通信費
支出合計	E 236,440	D 204,440	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※審査会時の選定では、提案された市の支出額を保証するものではありません。市の査定により減額されることがあります。また、事業の実施は3月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。

平成27年度「事業」提案書

平成26年8月19日

(宛先)

平塚市長

団体名	認定NPO 法人湘南ふじさわシニアネット
代表者	代表理事 小林信武
事業担当課	平塚市 社会教育部 スポーツ課
提案型	<input type="checkbox"/> 行政提案型 <input checked="" type="checkbox"/> 市民提案型 (<input type="checkbox"/> 自由部門 <input checked="" type="checkbox"/> テーマ設定部門)
新規・継続	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (平成26年度～)

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容 (事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

①事業名	市内スポーツ情報ポータルサイトの構築・運営事業
②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのか等。	<p>平塚市の近年の調査では、市民がスポーツを始めるきっかけとなるものは次の通りであった。</p> <p>1位) 身近に運動できる場所があること 3位) 仲間・家族からの誘いがある</p> <p>この2つで45%もの割合を占めることから、地域で活動する場所があることや、仲間がいることで市民がスポーツに親しむための大きな要素であることが分かった。</p> <p>また身近な地域で仲間や家族とともにスポーツ活動を望むことから、地域スポーツが重要であることが分かった。</p> <p>しかし現状はそれらの情報はほとんど無いか一元化されておらず、行政は市民からの問合せに対し上位である団体・協会等の連絡先を教えるに止まり、スポーツを希望する市民に対して十分なサービスができていない。</p> <p>このため、市民のスポーツ志向を行政として円滑に支援するには、これら地域で活動するスポーツ団体の情報を把握・整備し、その活動を広く市民に向けて発信するサービスの強化が望まれる。</p> <p>本事業により、スポーツを希望する市民が</p> <p>「いつでも、どこでも、手軽に」</p> <p>ホームページから市内のスポーツ団体に関する活動情報を得られることは、スポーツに取り組む市民が増えるとともに、地域におけるスポーツ活動がこれを機に、更に活発化する相乗効果が期待できる。</p> <p>特に若い世代(20歳代~40歳代)ではインターネットからの健康情報の取得率が高く、この年代のスポーツ参加率を上げるためにも、ホームページを活用した情報提供は有効と考えられる。</p> <p>折から、2020年の東京オリンピックの開催が決まり、市としてのスポーツ情報の発信によるスポーツ振興策に、本ポータルサイトは貢献することができる。</p>

<p>③協働の必要性・メリット</p> <p>なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。</p> <p>また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。</p>	<p>必要性</p> <p>行政の持つ組織力と信頼性を背景に、各種協会や市民活動団体からのスポーツ情報等の収集ができる。これらをポータルサイトの情報発信で、市民に広く紹介することができる。</p> <p>そして協働することで行政単独よりも、ICTの最新技術と運用経験を駆使して市民に親しみやすいポータルサイトを開発し運営することができる。</p> <hr/> <p>メリット</p> <p>(市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題等)</p> <p>市全域で行われるスポーツ情報等を、市民はいつでも、どこでも、手軽に得ることができ、子ども（親を含む）や働く人、更にはシニア層がその地域で自分に合ったスポーツを生活環境に取り入れ易くなることが期待でき、市民の健康増進を進める大きなきっかけづくりになる。</p> <p>(団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保等)</p> <p>行政が各種協会や市民活動団体に協力を呼びかけることにより、全市を挙げた体制ができると同時に、市民へ提供するスポーツ情報の信頼性が確保できる。</p> <p>更に行政の公的な広報媒体（広報ひらつか 等）を通じて、このポータルサイトを広く市民に周知することができる。</p> <p>(市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用等)</p> <p>市民の目線、利用者の目線に立った情報体系や表現法を設計・開発に盛り込むことができる。</p> <p>当該団体の持つICTの活用実績と経験を活かし、かつ最新の情報技術を駆使して、市民に使い易いサイトを開発でき、かつその後の効率的なサイト運営も期待できる。</p>
<p>④事業のアピールポイント</p> <p>この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い想い等アピールできることを記入してください。</p>	<p>(事業の先駆性)</p> <p>現在、市には1,000を超えるスポーツ団体が活動していると言われていたが、その活動状況はほとんど市民に広報されていない。</p> <p>今回の本ポータルサイト構築事業は、これらスポーツに関する未開拓の地域情報・団体情報を初めて行政として整備・構築する先駆的な活動であり、今後の市民のスポーツ参加と活動を活性化する基盤となるシステムである。</p> <p>(技術力)</p> <p>ポータルサイトの構築は、利用者目線からの「使い易さ」とともに「多様な情報満載技術」を両立させる難しい設計要素がある。</p> <p>弊団体は平成18年以来藤沢市と協働事業で培った「えのしま藤沢ポータルサイト（通称「えのぼ」年間31万アクセス）」の開発と運営ノウハウがある。</p> <p>更には「藤沢市サッカー協会サイト（年間14万アクセス）」を構築・運営している実績と技術力がある。</p> <p>(先進性)</p> <p>近年のモバイル機器（スマホ、タブレット等）の急速な普及・利用に対し、PCだけではなく市民の多様な利用形態に柔軟に対応できる最新ICT技術の採用が今や必須である。</p> <p>「いつでも、どこでも、手軽に」のコンセプトを実現するために最新の「レスポンス・ウェブデザイン手法」を今回採用する。</p> <p>(課題対応力)</p> <p>弊団体は、社会で豊富な経験ある会員を100名以上擁し、諸課題への対応力と解決へ導く組織力がある。</p>

<p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置等時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p>	<p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 2年目におけるスポーツ活動団体の情報の整備（200団体） 初年度整備済のスポーツ5団体のメンテナンス代行（記事の更新） ※原則 有償請負とする。対象10団体／スポーツ5団体 新機能 開発（追加機能 6項目）※27年度継続の開発 <p>【計画】（新機能を2回に分けて公開する）</p> <table border="0"> <tr> <td>4～ 6月</td> <td>第1次</td> <td>新機能の整理と設計</td> <td>開発</td> </tr> <tr> <td>7～ 9月</td> <td></td> <td>テストを協働で行う。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>第1次新機能の一般公開、運用開始</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>スポーツ活動団体のデータ収集</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10～12月</td> <td>第2次</td> <td>新機能の整理と設計</td> <td>開発</td> </tr> <tr> <td>1～ 3月</td> <td></td> <td>テストを協働で行う。</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>第2次新機能の一般公開、運用開始</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>公開運用</td> <td>平成28年4月～</td> </tr> </table> <hr/> <p>参考：初年度（26年）開発スケジュール</p> <table border="0"> <tr> <td>4～ 6月</td> <td>市の課題整理、イメージ作り・共有化・設計</td> </tr> <tr> <td>7～ 9月</td> <td>各協会・団体のデータ収集 データベース設計・開発開始</td> </tr> <tr> <td>9～12月</td> <td>開発継続</td> </tr> <tr> <td>1～ 2月</td> <td>テスト/アクセスビリティのチェック</td> </tr> <tr> <td></td> <td>行政・市民活動団体に限定提供、テストを協働で実施</td> </tr> <tr> <td>3～ 4月</td> <td>テスト結果評価、改善・修正 一般公開、運用開始</td> </tr> </table>	4～ 6月	第1次	新機能の整理と設計	開発	7～ 9月		テストを協働で行う。				第1次新機能の一般公開、運用開始				スポーツ活動団体のデータ収集		10～12月	第2次	新機能の整理と設計	開発	1～ 3月		テストを協働で行う。				第2次新機能の一般公開、運用開始				公開運用	平成28年4月～	4～ 6月	市の課題整理、イメージ作り・共有化・設計	7～ 9月	各協会・団体のデータ収集 データベース設計・開発開始	9～12月	開発継続	1～ 2月	テスト/アクセスビリティのチェック		行政・市民活動団体に限定提供、テストを協働で実施	3～ 4月	テスト結果評価、改善・修正 一般公開、運用開始
4～ 6月	第1次	新機能の整理と設計	開発																																										
7～ 9月		テストを協働で行う。																																											
		第1次新機能の一般公開、運用開始																																											
		スポーツ活動団体のデータ収集																																											
10～12月	第2次	新機能の整理と設計	開発																																										
1～ 3月		テストを協働で行う。																																											
		第2次新機能の一般公開、運用開始																																											
		公開運用	平成28年4月～																																										
4～ 6月	市の課題整理、イメージ作り・共有化・設計																																												
7～ 9月	各協会・団体のデータ収集 データベース設計・開発開始																																												
9～12月	開発継続																																												
1～ 2月	テスト/アクセスビリティのチェック																																												
	行政・市民活動団体に限定提供、テストを協働で実施																																												
3～ 4月	テスト結果評価、改善・修正 一般公開、運用開始																																												
<p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p>	<p>（団体の役割）</p> <ul style="list-style-type: none"> ポータルサイトの追加機能設計、開発、テスト（「えのぼ」等の運営ノウハウの反映） 27年4月からの運営（システム保守、問合せ・技術への対応） 市民団体への支援（地域パートナーとの連携による） メンテナンス代行（記事の更新） <hr/> <p>（市の役割）</p> <ul style="list-style-type: none"> 27年4月からの運営（市民からの問合せ対応サービス等） 市民へのポータルサイトの広報（広報ひらつか、ちらし等の配布・公共機関での設置）及び、操作マニュアルの印刷・関係団体への配布 市内の各協会や、スポーツ活動団体への情報提供依頼と協力体制の整備や調整 ポータルサイトの設計やテスト評価への支援 広告掲載依頼や、民間スポーツ施設との連絡調整 市のスポーツ情報の更新や、関係課等との連絡調整 打合せに必要な会議室等の提供 																																												

<p>⑦他団体との連携</p> <p>この事業に関し、他団体等と連携の実績や予定があれば記入。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本ポータルサイトは、各協会やスポーツ活動団体からの年間継続した各種情報提供が、非常に重要な要素である。 ・地域情報に明るい、平塚市の「まちづくり」「市民大学」等で活躍するNPO 団体である「湘南 NPO サポートセンター」が地域パートナー団体である。市を愛する団体なので、十分な活動を期待できる。 <p>スポーツ活動団体への PC 操作指導等を予定。場合によっては取材や記事作成も協力をいただく。</p>
<p>⑧成果目標 (目標値)</p> <p>できるだけ数値で具体的に記入してください。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.市民がポータルサイトの利用により、「いつでも、どこでも、手軽に」市内スポーツ情報を得ることができ、スポーツへの興味・関心が高まる。 2.市民が使い勝手の良い新しい機能を充実することで、操作性が向上し利用頻度が増す。 例えば、民間のスポーツ施設の検索等が新しく装備される。 イベントカレンダー機能等で、「いつ・どこで・何を」が分かるようになる。 3 基幹となるスポーツ5 団体を始め、約300の協会やスポーツ活動団体の活動内容の検索を市民が自由に行えるようになり、スポーツ活動への参加が容易になる。 <p>成果目標値：(平成28年4月より公開予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・200のスポーツ活動団体の情報の整備ができる。 ・操作性を含む6項目の機能充実 民間スポーツ施設情報の追加充実、団体運営用ページ、イベントカレンダー、動画マニュアル等 <hr/> <p>参考 26年度 本ポータルサイト構築事業は、対象団体が推定 1,000 団体を超える規模なので、工数・予算面から段階的な開発を行うこととした。 初年度の平成 26 年度は、基幹となる「スポーツ5 団体」 体育協会、 体育振興連絡協議会、 スポーツ推進委員協議会、 スポーツクラブ連合、 レクリエーション連盟 に属する約 100 協会・団体を対象とする。</p>
<p>⑨関係法令等</p> <p>事業実施に関連した法令等があれば記入してください。</p>	<p>ウェブアクセシビリティ日本工業規格 JIS X8341-32010 個人情報保護に関する法律 平塚市個人情報保護条例</p> <p>※ご不明の場合は、事業担当課へご確認ください。</p>

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) ニンテイエヌピーオーホウジン ショウナンフジサワシニアネット 認定 NPO 法人 湘南ふじさわシニアネット		
②所在地	〒251-0052 神奈川県藤沢市藤沢496 藤沢森井ビル 604号		
③ホームページ	http://www.sfs-net.com/		
④担当者 及び連絡先	担当者	大屋憲彦 (役職) なし	
	電話	(連絡可能な時間帯) 10時～18時	
	FAX	e-mail	
	住所	〒 藤沢市	
⑤設立年月	平成15年 6月 (法人格取得年月 平成16年 7月)		
⑥会員の状況	個人会員	104人 (うち平塚市民 1人)	団体会員 0団体
⑦活動内容 ・活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・IT教育：地域の商店街へのパソコン講習、セキュリティ講座等 多数実施。 ・HP制作：実績35団体HPの制作・運用(藤沢市サッカー協会 ほか) ・グラフィックデザイン：HPデザイン、冊子編集出版支援、ちらし等の制作。 ・経営相談・経理業務受託：10団体の経理支援、経営相談実施。 ・協働事業—藤沢市) えのしま-ふじさわポータルサイト運営事業、健康メッセ開催事業、パソコン出前病院等 —茅ヶ崎市) 地域コミュニティ醸成事業、生涯学習ガイドブック検索 等 —慶大) ふれあい健康教室、&湘南読売) との IPAD・iPhone 講座 <p>★平成24年(2012年)10月 神奈川県指定 NPO 法人 認定。 ★平成25年(2013年)6月 認定 NPO 団体として認可される。</p>		
⑧協働事業との関わり	<input type="checkbox"/> 新たな事業 <input type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 今までの活動と同規模		
⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。	役職等	氏名	協働事業での役割
	①	大屋憲彦	リーダー。
	②	市川幸利	サブリーダー。地域協働推進。
	③	桃崎由利子	開発・テスト。全体技術担当。
	④	谷口良作	開発・テスト。
	⑤	小川厚子	開発・テスト
	⑥	岩本 勲	開発・テスト、地域協働推進。
	⑦	栗原宏一	エキスパート (えのぼ開発責任者)
	⑧	竹内克彦	エキスパート (えのぼ開発責任者)
	⑧		
⑨			

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

総事業費	914,107 円	市の支出	896,607 円
		団体の支出(他の収入等)	17,500 円

① 収入

金額単位：円

項目	予算額	内容
市の支出	C 896,607	
団体の支出	0	
事業収入	17,500	バナー広告 5,000 円 x 2; 記事有償代行 1H/P x 15P x @500 円
収入合計	A 914,107	

② 支出

【下期消費税は10%とした】

項目	予算額	うち市の支出分	積算単価の等具体的な内容
1. 全体設計 全体画面改善・修正	19,200	同左	2H/月 x 12 月 x @800 円
2. 機能拡充 1) RSS リーダ設置 5 (*Rich Site Summary) 2) 施設情報追加 (*学校/公民館 69) 3) お問い合わせオンライン化 4) 役員用ページ設定 5) イベントカレンダー	24,000 27,600 9,600 20,000 56,000	同左	(20H + (2H x 5P)) x @800 円 0.5H/p x 69P x @800 円 (2H + (2H x 5P)) x @800 円 (20H + (5H x 1P)) x @800 円 (20H + (0.5H x 100p)) x @800 円
3. 団体紹介 DB 1) 新規 DB 追加 (200P) 2) 記事更新代行 15P	160,000 7,500	160,000 0	*新規 200 団体 1H/P x 200P x @800 円 (1 団体 1 頁) 1H/P x 15P x @500 円 (記事有償代行)
4. イベント紹介 1) イベント記事入力支援	60,000	同左	1H/P x 120 件/年 x @500 円
5. 操作教育教材の動画化 1) 機材準備、録画、編集 2) 画面設定	48,000	同左	動画マニュアル制作 10 本 60H x @800 円
6. 基本システム構築・維持 セキュリティ、バックアップ 作業 アクセス解析、SEO	48,000	同左	平均 5H/月 x 12 月 x @800 円
7. 定例打合せ 1) 平塚市との定例会 2) パート団体との打合せ	76,800 93,600	同左	2H/回 X 2 回/月 x 2 人 x 12 月 x @800 円 3H/回 X 1 回/月 x 2 人 x 12 月 x @800 円 3H/回 X 1 回/月 x 2 人 x 12 月 x @500 円

8. 事務用品	20,000	同左	用紙：A4 版 10 冊 x500 円 インク：12 本 x1000 円 ほか 消費税 8%込
9. 旅費・交通費	23,040	同左	*定例会 月 2 回 (JR 藤沢-平塚=240 円 x2) x4 人/月 x12 月 (バス大庭-藤沢=290 円 x2) x4 人/月 x12 月 *定例会 月 1 回 (JR 藤沢-平塚=240 円 x2) x2 人/月 x12 月 (平塚バス 210 円 x2) x2 人/月 x12 月 消費税 8%込
1) 平塚市との定例会	27,840		
2) パート団体との打合せ	11,520		
	10,080		
10.賃貸	21,600	同左	*外部レンタルサーバ会社利用 ・サーバー 1,500 円 x12 月 ・ドメイン名 2,000 円/年 x 消費税 8%
11.ソフト費	43,200	同左	*サイト装着ソフトの購入:4 本 x10,000 円 ・フォーム構成、カレンダーほか x 消費税 8%
12.管理費	48,000	38,000	・えのぼエキスパートの支援 48H x@1000 円 ・管理費(プロジェクト管理、1-7 項消費税) ・広告収入 10,000 円
	58,527	58,527	
支出合計	B 914,107	D 896,607	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※審査会時の選定では、提案された市の支出額を保証するものではありません。市の査定により減額されることがあります。また、事業の実施は 3 月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。

(宛先)

平塚市長

団体名	ひろげよう子育て支援の会
代表者	田中 眞知子
事業担当課	こども家庭課
提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型 <input type="checkbox"/> 市民提案型 (<input type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門)
新規・継続	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (平成26年度～)

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容 (事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

① 事業名	感覚統合療法普及事業	
②事業の目的・ 必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。	<p>発達障がいの特徴として、これまで言われてきた三つ組み（社会性、コミュニケーション、イメージーション）に加えて、近年の研究で特異な感覚の問題が語られるようになってきている。感覚統合療法は、前庭感覚や固有覚、五感を適切に刺激する活動をおこなうことで、楽しみながら自分のからだを知り、他のさまざまな療育アプローチと組み合わせることで子どもたちの発達を促すことができる。保育や教育の現場では、子どもたちの不器用さや落ち着きのなさ姿勢の悪さなどが目立つようになっている。平塚市子ども発達支援室くれよんのホールを利用して感覚統合療法を体験・研修・実践する場を提供することにより、保育・療育関係者、教育関係者が、ともに理解を深め、子どもたちへの発達支援に役立てることができる。</p>	
③協働の必要性・ メリット なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。 また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。	必要性	<p>感覚統合療法に必要なスペースと専門的な遊具を揃えることは市内の民間の一事業所では難しいが、平塚市が持つ場所を活用し団体が市内事業所に呼び掛けて必要な研修を行い実践する環境を作ることで、さまざまな所属の子どもたちが感覚統合療法を体験することができる。</p>
	メリット	<p>(市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など) にこここ園のホールを利用して、専門的な視点を持って準備された感覚統合遊具を体験し、子どもたちに必要な発達支援のためのアドバイスを保護者や事業所が受けることができる。</p>
		<p>(団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など) 団体の目的である市民による主体的な子育てと子どもの育ちを支援する活動の拡充とネットワークづくりを、これまで実施してきた連続講座やワークショップに加え、本事業でさらに進めることができる。</p> <p>(市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など) 団体が持つ他市の療育センターや民間事業所の感覚統合療法についての情報や会員の専門性を活用することで、平塚市全体の療育の質や支援者のスキルアップを図り、子どもたちの発達支援全体のレベルを上げることができる。</p>
④事業のアピール ポイント この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い想いなどアピールできることを記入してください。	<ul style="list-style-type: none"> ・市内には多くの発達支援に関わる事業所が開設され、それぞれ特性をもった支援を実施している。感覚統合について、これまでくれよん主催の研修会、今年度の協働事業による勉強会等でも継続して学んできており、意識は高くなっている。 ・本事業を通して、くれよんの感覚統合遊具をより充実させ、すでにある遊具や備品とともに多くの子どもたちが体験することにより有効活用し、職員や保護者にも遊具を通して感覚統合について伝える機会をさらに広げることができる。 ・衝動性や社会性に課題をもつ子を公園で遊ばせる困難さや、子どもたちが今、発達の段階で体験する必要がある遊びを制止しなければならないといった問題にも「遊ぼう体験会」に参加の保護者や勉強会での職員の声から気づくことができた。安全な環境で思いきり遊ばせることができる場の必要性は大きい。 ・体験・実践・学びのサイクルを重ね、引き続き本事業の継続と充実をめざしたい。 	

<p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p>	<p>4～5月 感覚統合療法実施スペースの整備。遊具の購入。</p> <p>6～2月 市内児童発達支援事業所利用 連絡調整くれよん、当日の運営は各事業所で継続 利用事業所合同勉強会開催（隔月 6回） うち2回を市内保育所、幼稚園職員を対象を広げて開催</p> <p>6～2月 感覚統合遊具で親子であそぼう体験会 6回開催・各回10組親子 幼稚園・保育所、子育て広場、子育て支援センター、育児サークル等へ広報 各回スタッフ5名（にこにこ園2 ひろげよう3）</p> <p>9～10月 感覚統合研修会（講演会）開催 参加 100名 講師候補：笹森理絵さん（発達障害当事者・保護者、社会福祉士、相談員）</p>
<p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p>	<p>（団体の役割） 合同勉強会の準備・運営。 研修会（講演会）の広報・準備・運営。 遊ぼう体験会の準備・運営・広報。</p> <hr/> <p>（市の役割） 市内児童発達支援事業所への連絡・調整。 利用場所・遊具の提供。 研修会、遊ぼう体験会の広報、会場手配。</p>
<p>⑦他団体との連携</p> <p>この事業に関し、他団体等と連携の実績や予定があれば記入。</p>	<p>市内児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所。 保育所、幼稚園。市内子育て支援団体、障がい児者親の会。 障がい者自立支援協議会子ども部会</p>
<p>⑧成果目標（目標値）</p> <p>できるだけ数値で具体的に記入してください。</p>	<p>事業所利用 市内児童発達支援事業所 1回/月以上 事業所合同勉強会 利用事業所職員対象 4回 参加各20名 市内保育所、幼稚園職員を対象を広げて開催 2回 参加者40名 親子で遊ぼう体験会 参加親子 6回×10組 計60組 感覚統合研修会（外部講師講演会） 参加者目標 100名 （成果目標値：)</p>
<p>⑨関連法令等</p> <p>事業実施に関連した法令等があれば記入してください。</p>	<p>※ご不明の場合は、事業担当課へご確認ください。</p>
<p>⑩事業実施以降の展望</p> <p>事業実施後の具体的な展望や、提案事業の成果をどのように活かしていくのか記入してください。</p>	<p>■ 次年度以降も双方で実施（<input checked="" type="checkbox"/> 提案型協働事業 <input type="checkbox"/> 提案型以外） <input type="checkbox"/> 団体が単独で実施 <input type="checkbox"/> 行政が単独で実施 <input type="checkbox"/> 事業は今年度のみ予定 <input type="checkbox"/> その他（)</p> <hr/> <p>（実施後の具体的な事業展開や上記の補足事項） 事業所の利用については、利用調整をくれよんが担当し、当日の利用は各事業所が自主運営する。合同勉強会についても、事業所間での交代で自主的な運営を促す。遊ぼう体験会の開催回数を増やし、勉強会の対象を幼稚園・保育所等にも広げることで、子どもの発達における感覚統合のエッセンスを含んだ支援への理解をさらに深めていきたい。</p>

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) ヒロゲヨウコソダテシエンノカイ ひろげよう子育て支援の会		
②所在地	〒 平塚市		
③ホームページ	http://		
④連絡担当者 及び連絡先	担当者	宮本久美子 (役職) 副代表	
	電話	(連絡可能な時間帯)	
	FAX		e-mail
	住所	〒 平塚市	
⑤設立年月	2005年 5月 (法人格取得年月 年 月)		
⑥会員の状況	個人会員	15人 (うち平塚市民 15人)	団体会員 団体
⑦活動内容 ・活動実績	<p>2005年度 「いっしょに考えよう子育て支援」次世代育成支援計画を学ぼう 学びトーク 大蔵市長との意見交換会</p> <p>2006年度 子育て支援者向けワークショップ 全3回 イイジヤさん(子育て支援センター・チーフアドバイザー)</p> <p>2007年度 子育ておしゃべり会 情報交換会 幼保一体化勉強会、ゆうゆうの森幼稚園(横浜市)見学、子ども夢パーク(川崎市)見学</p> <p>2008年度 「子どもの育ち・発達を支援する」連続講座 県子ども子育て支援プロジェクト事業</p> <p>2009年度～2011年度 子育て支援情報交換会(隔月程度)</p> <p>2012年度 葦牙(あしかび)上映実行委員会 参加 くれよん感覚統合勉強会(児童発達支援事業所対象)参加・運営協力</p> <p>2013年度 記録映画「葦牙(あしかび)」上映会協力 「いっしょに考えよう平塚の子育て支援」阿部美和子さん(混合療育を考える会) 「子どもの育ち・発達を支援する」連続講座2013 全3回 「ママ友から学ぶ楽しい親子関係」セミナー 平塚市市民向け講座等共催事業</p> <p>2014年度 平塚市行政提案型協働事業「感覚統合療法普及事業」 その他：平塚市次世代育成支援行動計画進行管理への意見提案(市児童サービス調整部会参加)</p>		
⑧協働事業との関わり	<input type="checkbox"/> 新たな事業 <input type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模		
⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。	役職等	氏名	協働事業での役割
	①代表	田中真知子	他団体との連絡調整、各事業運営 幼児保育教育施設代表・幼稚園教諭
	②副代表	宮本久美子	市との連絡調整、各事業運営 児童発達支援事業所職員・保育士 感覚統合療法入門講習会(基礎)修了
	③副代表	木村由紀	ボランティア募集、広報、各事業運営 児童発達支援事業所職員・保育士 感覚統合療法入門講習会(基礎)修了
	④	佐藤志野	合同勉強会運営・各事業運営・アドバイス 児童発達支援事業所職員・作業療法士 感覚統合療法入門講習会(基礎)修了
	⑤	山内享子	幼児教室主宰
	⑥	鈴木愛子	自閉症児者親の会・相談員
	⑦	井上和美	保育士
	⑧	戸森よしえ	児童発達支援事業所職員・看護師
	⑨	村上早苗	保育士
⑩	佐瀬葉子	子育て支援活動団体代表・保育士	

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

総事業費	562,700円	市の支出	512,700円
		団体の支出(他の収入等)	50,000円

①収入

金額単位：円

項目	予算額	内容
市の支出	C 512,700	備品購入費、講師謝金、旅費・交通費等
団体の支出	0	
事業収入	50,000	研修会参加費収入 500円×100名
収入合計	A 562,700	

②支出

項目	予算額	うち市の支出分	積算単価のなど具体的な内容
謝金（講師）	30,000	30,000	研修会講師への謝礼 30,000円
謝金	17,500	17,500	研修会 当日スタッフ 500円×5名=2500円 親子で遊ぼう体験会 当日スタッフ・ボランティア 500円×5名×6回=15000円
保険料	6,000	6,000	親子で遊ぼう体験会 傷害保険 1000円×6回=6000円
通信費	8,200	8,200	研修会・遊ぼう会お知らせ等 送料 82円×100通
事務用品・印刷	4,500	4,500	研修会資料用紙 500円×3冊=1500円、 印刷 3000円
旅費・交通費	16,500	16,500	スタッフ・ボランティア 交通費（研修会・遊ぼう会） 500円×3名×7回=10500円 スタッフ交通費（合同勉強会） 500円×6回×2名=6000円
講師交通費	50,000	0	研修会講師（兵庫県在住）の交通費等 50,000円
備品購入	430,000	430,000	利用頻度の増加に伴い、現在使用しているビニールボールのいたみボールの消耗も激しいことから今年度購入できなかったボール 300000円、新たなスイング 130000円の購入（事業所利用・遊ぼう体験会で人気。公園などでもプランコがなくなり体験が減少）設置場所の変更により昨年度予算より変更提案。
支出合計	B 562,700	D 512,700	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※審査会時の選定では、提案された市の支出額を保証するものではありません。市の査定により減額されることがあります。また、事業の実施は3月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。

平成27年度「事業」提案書

平成26年8月15日

(宛先)

平塚市長

団体名	多文化共生ひらつか情報局
代表者	中野 恵子
事業担当課	文化・交流課
提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型 <input type="checkbox"/> 市民提案型 (<input type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門)
新規・継続	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 (平成25年度～)

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容 (事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

①事業名	外国籍市民支援放送事業	
②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。	<p>東日本大震災の経験により、外国籍市民にとってFM放送を活用しての計画停電や公共機関等の業務などの情報を多言語で発信することが、IT情報や口コミによる不安定な情報よりも平塚市に特化したきめ細かく正確で最新の情報で何よりも信頼できるものであると認識されました。</p> <p>個人的なつながりによる放送体制では、不安定で緊急時に放送できない可能性がでてくるため、複数のコーディネーターやキャスター、及び翻訳者を用意し、日頃から外国籍市民にとっても有益で信頼できる地域情報を発信します。また、多言語ラジオ放送を身近なものとするとともに、緊急災害時等にも滞りのない情報提供ができる体制を確立していきます。</p>	
③協働の必要性・メリット なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。 また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。	必要性	<p>行政の持つ正確な情報と文化的な背景も含めて通訳できる人材が協働することで、緊急時の対応はもちろん、誰もが住みやすい多文化共生のまちづくりの一助になります。</p>
	メリット	<p>(市民のメリット：市民が受けられるサービスや解決される課題など) 外国籍市民が正確な情報を得ることができ、安心して行動できることはもちろん、外国籍市民のリーダーに正確な情報が伝わることで、末端にまで情報が届きやすくなります。</p>
		<p>(団体のメリット：行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など) 行政などの正確な情報を提供する流れを日頃から作っておくことで、緊急時にも早く放送をすることができます。行政用語を分かりやすく翻訳することについても、日頃から研鑽できます。</p> <p>(市のメリット：団体が持つ専門性やノウハウの活用など) 外国籍市民への情報提供手段の確保と、緊急多言語放送の対応ができるようになるのと同時に、日常の体制を整えておくことで緊急時の情報の提供までの時間や緊急翻訳費用の効率化を図ることができます。</p>
④事業のアピールポイント この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い思いなどアピールできることを記入してください。	<p>県内で平塚市のボランティアによる多文化共生の取り組みは先進的であり、中でもFM多言語ラジオ放送による生活情報提供は、外国籍市民からも評価を得ているところです。行政と協働していく中で、FM多言語ラジオ放送に関わる人を増やし、緊急時に対応できる組織体制を整えています。防災インフォメーションに協力し、多言語で放送することにより外国籍市民等が安心して暮らせるまちづくりが進められます。</p>	

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) タブンカキョウセイヒラツカジヨウホウキョク 多文化共生ひらつか情報局		
②所在地	〒 平塚市		
③ホームページ	http://		
④連絡担当者 及び連絡先	担当者	中野 恵子 (役職) 代表	
	電話	() (連絡可能な時間帯)	
	FAX		e-mail
	住所	〒: 平塚市	
⑤設立年月	2012年1月 (法人格取得年月 年 月)		
⑥会員の状況	個人会員	15人 (うち平塚市民 13人)	団体会員 団体
⑦活動内容 ・活動実績	FM 湘南ナパサで平成 7(1995)年 1 月から多言語で生活情報を放送発信してきた「インタナショナル・ナパサ」を母体に、多文化共生の視点をより深めるため「多文化共生ひらつか情報局」として、平成 24(2012)年 1 月に新しく発足した。 平成 25(2013)年 4 月 協働事業開始 平成 26(2014)年 5 月 平塚市国際交流協会主催「ひらつか国際交流フェスティバル」にて、団体の PR、総合公園管理事務所において 2 言語で園内放送を実施 平成 26(2014)年 6 月 平塚市通訳・翻訳ボランティアバンク連絡会にて、団体の PR、アンケートを実施		
⑧協働事業との関わり	<input type="checkbox"/> 新たな事業 <input checked="" type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模		
⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。	役職等	氏名	協働事業での役割
	①代表	中野 恵子	コーディネーター兼日本語キャスター
	②副代表	升水 毅	コーディネーター兼日本語・スペイン語キャスター
	③副代表	庄司 春江	ポルトガル語キャスター
	④会計	酒井 由紀	中国語キャスター
	⑤事務局長	杵渕 証明	
	⑥	テレシタ パレンタ	タガログ語キャスター
	⑦	李 晶	中国語キャスター
	⑧	今井 さつき	韓国語キャスター
	⑨	アリチ マカリー	スペイン語キャスター
	⑩	薛 嘉雯	中国語キャスター

3 収支予算書（この協働事業だけの金額を記入してください）

総事業費	453,000 円	市の支出	300,000 円
		団体の支出(他の収入等)	153,000 円

①収入

金額単位：円

項目	予算額	内容
市の支出	C ¥300,000	報償費 275,000 円 消耗品 25,000 円
団体の支出	¥15,000	会員会費等 1,000 円×15 人=15,000 円
事業収入	¥138,000	賛助会費 30,000 円 (1,000 円×30 口)、FM湘南ナパサ 108,000 円
収入合計	A ¥453,000	

②支出

項目	予算額	うち市の支出分	積算単価のなど具体的な内容
謝金 (有償ボランティア)	¥383,600	① ¥275,000	◎コーディネーター 2人 (月3回:1回700円) 2,100円×12ヶ月×2人=50,400円 ◎放送ボランティア(キャスター) 6言語各1人(月3回:1回700円) 2,100円×12ヶ月×6言語(各1人)=151,200円 ◎原稿翻訳ボランティア 6言語各1人(月3回:1回700円) 2,100円×12ヶ月×6言語(各1人)=151,200円 ◎各種イベント等 11言語各1人(年4回:1回700円) 2,800円×11人 = 30,800円
消耗品費	¥35,000	② ¥25,000	色上質紙、コピー用紙¥20,000、放送用CD等 ¥10,000、USB¥5,000
イベント参加費	¥5,000		
交流会費	¥29,400		会議用お茶代
支出合計	B ¥453,000	D ¥300,000	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※審査会時の選定では、提案された市の支出額を保証するものではありません。市の査定により減額されることがあります。また、事業の実施は3月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。

(宛先)

平塚市長

団体名	NPO 法人ひらつかエネルギーカフェ
代表者	田中良治
事業担当課	市民情報・相談課
提案型	<input checked="" type="checkbox"/> 行政提案型 <input type="checkbox"/> 市民提案型 (<input type="checkbox"/> 自由部門 <input type="checkbox"/> テーマ設定部門)
新規・継続	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続(平成25年度～)

協働事業について、以下のとおり事業提案します。

1 提案内容(事業担当課との意見交換をもとに、具体的に詳しく記入してください。)

①事業名	食品の放射性物質簡易検査	
②事業の目的・必要性 なぜこの事業が必要か、どのような市民サービスの向上が図られるのかなど。	東日本大震災に伴う原子力発電所の事故により、食の安全・安心やエネルギー問題が全国的な課題となっている。「食品と放射能」問題については、生産・出荷サイドでの検査が実施されている。しかし、消費者の「食に対する信頼」をさらに回復するためには、①身近な地方自治体である市レベルで、②市民が消費する食品(お米、野菜等)について、③市民が安心して依頼できる、そのような検査の体制を整えることが必要である。	
③協働の必要性・メリット なぜ、市と協働で実施したいのか、協働することの必要性を記入してください。また、市民・団体・市のメリットをそれぞれ具体的に記入してください。	必要性	<p>行政が関わることで行政の持つ信頼性を背景に、事業の円滑な進行や幅広い周知ができる。また国から放射性物質検査器の貸与を受けることができるので、市民の経済的負担が少ない検査が可能である。</p> <p>また協働することで行政単独よりも、検査の中立性への信頼を市民から得られやすく、また市民が検査結果を正しく理解し自立した消費者になる支援についても、より市民目線に立って行うことができる。</p>
	メリット	<p>(市民のメリット:市民が受けられるサービスや解決される課題など)</p> <p>市民に身近な場所で、また検体準備以外は基本的に無料で、市民が食品放射能検査を依頼できることで、情報不足による「食への不安」の解消や自立した消費者への成長を実現するきっかけが得られる。また市HPでの検査結果公表により、その効果が多くの市民にも共有される。</p>
		<p>(団体のメリット:行政が持つ情報等の活用や信頼性の確保など)</p> <p>当団体が事務所において従来から行ってきた市民への省エネ・創エネ相談に加えて、行政と協働で行う放射能に関する情報提供は、当団体が市民ネットワークを拡大し、市民からの高い信頼を得ることに大いに寄与する。</p> <p>(市のメリット:団体が持つ専門性やノウハウの活用など)</p> <p>専門知識を持つ中立的団体と協働することにより、検査結果への市民の信頼性を高めることができ、かつ消費者のリテラシーを高める各種情報の提供が期待できる。また団体の有する既存の人材・スペース・設備を利用でき、市単独実施に比べて経済的負担が抑えられる。</p>
④事業のアピールポイント この事業の先駆性、先進性、創意工夫、事業の売りや熱い想いなどアピールできることを記入してください。	未だに終息できない原発事故の影響で現在も、幼児を持つ母親をはじめとする市民・消費者の「食への不安」は根強く、また生産者はいわゆる「風評被害」に苦しんでいる。これらの解消のためには、「消費者のための身近な食品放射能検査」が重要で、各地で行政や市民が各々で検査所の開設を進めている。平塚市域初の検査所の開設・運営を、行政と市民の協働で実施することは、各地の経験により明らかになっている幾つかの問題点を上記協働のメリットでクリアできる試みとして多いに期待できる。	

<p>⑤事業概要・計画</p> <p>スケジュール・人員配置など時系列、箇条書きで具体的に記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1日1回／週、4件／週、検査員1名で実施予定 ・年度初に市民向け啓発用パンフレット、チラシ市と共同で作成し、イベント等で配付するなど検査の周知に努める。
<p>⑥役割分担</p> <p>団体、市の役割を具体的に記入してください。</p>	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査装置の設置場所提供及び日常管理 ・検査の当日受付、実施、依頼者への結果通知 ・放射能・エネルギー問題に関する依頼者への情報提供 <p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査装置の導入及び定期点検の管理 ・検査の予約受付 ・検査結果の公表と必要に応じて2次精密検査への対応
<p>⑦他団体との連携</p> <p>この事業に関し、他団体等と連携の実績や予定があれば記入。</p>	<p>特になし</p> <p>平成26年10月から大磯町と連携開始予定</p>
<p>⑧成果目標(目標値)</p> <p>できるだけ数値で具体的に記入してください。</p>	<p>検査を実施し、結果を依頼者に報告し、一般市民に公開することにより市民の「食の不安」の解消に資する。</p> <p>(成果目標値:年間検査件数120)</p>
<p>⑨関連法令等</p> <p>事業実施に関連した法令等があれば記入してください。</p>	<p>食品衛生法、原子力災害対策特別措置法</p> <p>※ご不明の場合は、事業担当課へご確認ください。</p>
<p>⑩事業実施以降の展望</p> <p>事業実施後の具体的な展望や、提案事業の成果をどのように活かしていくのか記入してください。</p>	<p>■次年度以降も双方で実施(□提案型協働事業 ■提案型以外)</p> <p>□団体が単独で実施 □行政が単独で実施</p> <p>□事業は今年度のみ予定 □その他()</p> <p>(実施後の具体的な事業展開や上記の補足事項)</p> <p>放射性セシウムの半減期は30年、魚介類等への放射能汚染の顕在化も今後心配される。検査件数減少を理由に検査体制を断念する自治体もあるが、行政として、消費者側の検査・情報公開体制を維持する決断をし、食の安全・安心を未来に繋げていくことが必要と考える。</p>

2 企画提案団体の概要

①団体名	(フリガナ) トクテイヒエイリカゾウホウジン ヒラツカエネルギーカフェ 特定非営利活動法人ひらつかエネルギーカフェ		
②所在地	〒 平塚市		
③ホームページ	http://blog.hicek.org/		
④連絡担当者 及び連絡先	担当者	田中良治 (役職) 運営委員(代表理事)	
	電話	(連絡可能な時間帯) 9時～17時	
	FAX		e-mail
	住所	〒 平塚市	
⑤設立年月	2006(平成18)年4月 (法人格取得年月)		2007(平成19)年7月
⑥会員の状況	個人会員	26人 (うち平塚市民)	11人 団体会員 4団体
⑦活動内容 ・活動実績	<p>平塚市民をはじめとする社会全体に対して、脱温暖化社会に向けたエネルギーに関する事業を行い、持続可能な環境づくりに寄与することを目的として活動を行っている。</p> <p>平成19年～現在: エネルギーカフェみかんやにて、エネルギー関連ミニ講演会、ソーラークッキング、エネルギー相談等の普及活動を月各1回程度実施。</p> <p>平成20年～現在: 各所イベント会場にて、エネルギー関連の講座や相談会等の普及活動を年各5回程度実施。</p> <p>平成23年～現在: 福島県飯館村支援活動(「かーちゃんの力」飯館応援隊)。</p> <p>平成23年～現在: 平塚市地球温暖化対策実行計画策定協議会に2名が委員として参加し計画づくり、その後本計画の協働推進プロジェクト(環境ファンクラブ)に参画し計画実現のため活動。</p> <p>平成24年12月～現在: 市との協働事業「食品の放射能物質簡易検査」を毎週実施。</p>		
⑧協働事業との関わり	<input type="checkbox"/> 新たな事業 <input checked="" type="checkbox"/> 今までの活動の拡大 <input type="checkbox"/> 今までの活動と同規模		
⑨活動体制 活動に携わるメンバーを記入してください。 10名以上の場合は、主なメンバーを記入してください。	役職等	氏名	協働事業での役割
	①代表(理事)	田中良治	事業統括、検査員
	②運営委員(理事)	大嶋朝香	検査員
	③運営委員(理事)	藤元美智子	事務
	④監事	寺山泰郎	会計、検査員
	⑤	神馬純江	検査員

3 収支予算書(この協働事業だけの金額を記入してください)

総事業費	840,360 円	市の支出	772,600 円
		団体の支出(他の収入等)	67,760 円

①収入

金額単位: 円

項目	予算額	内容
市の支出	C 772,600	①負担金(団体への支払) 399,600 ②保守費 333,000 ③消耗品費 40,000
団体の支出	67,760	団体の会計より支出
事業収入	0	
収入合計	A 840,360	

②支出

項目	予算額	うち市の支出分	積算単価のなど具体的な内容
検査機保守費	333,000	333,000	定期点検(年1回)
検査事務用品等	40,000	40,000	コピー用紙、インク、広報用チラシ紙代、検査用消耗品など
検査員謝金 (有償ボランティア)	129,600	129,600	検査: 800 円×162 件 (検査実施件数により支出、記載は見込み) 週1回で1回4件実施予定
検査機設置費	270,000	270,000	設置費: 22,500 円×12 月/年 検査用光熱水費、校正費用等を含む
検査員交通費	17,760		片道 2 回/週×4 週/月×12 月/年×平均 185 円/片道 (検査実施日数により支出、記載は見込み)
団体側広報費	50,000		パンフレット、チラシ、看板など
支出合計	B 840,360	D 772,600	

注) 収入合計 A と支出合計 B、及び、市の支出 C と支出合計 D は同額となります。

注) 市の支出の他に、県やその他の助成金がある場合は、収入・支出に明記してください。

※審査会時の選定では、提案された市の支出額を保証するものではありません。市の査定により減額されることがあります。また、事業の実施は3月議会での承認により決定されます。

※この事業提案書は、個人情報の一部を除き、ホームページ等で公表します。